

わかみやだより

㊦ かけあい、㊦ かんがえ ㊦ つけて、㊦ ってみよう

「自分たちの学校は、自分たちで創る」 ～「みんなが行きたくなる学校」を考える～

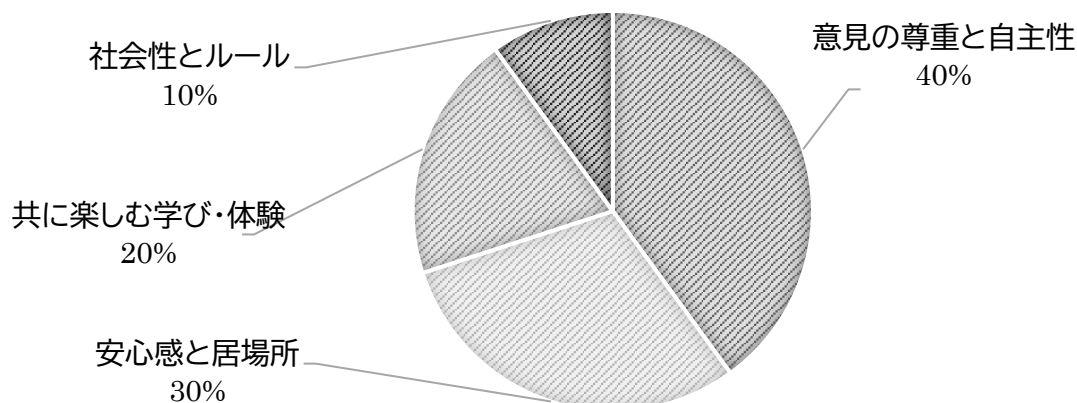
先日実施した学校評価アンケート「みんなが行きたくなる学校」では、130件あまりの貴重なご意見をいただきました。多くの保護者の皆様から「こどもの意見を大切にしてほしい」というメッセージをいただきました。ご協力ありがとうございました。集計いたしましたので報告させていただきます。

■ 保護者の皆様のご意見

アンケート結果を分析すると、「尊重」というキーワードが全ての土台となっていることが分かりました。

意見の尊重と自主性	こどもの意見をきちんと聞く、自分たちで解決する力	40%
安心感と居場所	個性の尊重、失敗してもいい、ありのままの自分	30%
共に楽しむ学び・体験	授業が楽しい、行事の共有、ワクワクする経験	20%
社会性とルール	大人目線での導き、挨拶、思いやり、自律	10%

「みんなが行きたくなる学校」保護者アンケート



アンケートのご回答の中には「こどもたちが自分で考え、やってみようと思える学校」という言葉がありました。

学校は、これからも、こどもたちが自ら「わかちあい、かんがえ、見つけて、やってみる」プロセスを支えていきます。保護者の皆様、地域の皆様には、こどもたちの挑戦し行動しようとする姿を温かく見守り、支えていただければ幸いです。

【保護者の皆様の声（抜粋）】

■ 他者の尊重

「自分の個性を認めてくれる場所。自分の居場所があり、自分らしくいられて、受け入れてくれる友達や先生がいて、思いっきり笑ったり遊んだりできる学校。」

「先生方と友だちと過ごす中で、行事や経験の楽しさや大変さを分かち合え、地域の方の見守りがある安心感のある学校。」

■ 主体性・対話

「子供の意見を尊重しながらも、社会のルールや人としてのあり方を大人目線で伝える。その中で子どもがのびのびとし、大人に対しても安心して自分の意見を言えること。」

「何か問題が起きても、自分たち、または先生も交えて解決でき、安心して通える場所であること。」

■ 発見・居場所

「家庭とはまた違った安心できる場所。それぞれの個性を尊重し、子どもたち一人ひとりに居場所がある学校。」

「学校でしかできないことを知り、芋掘りのように家庭では経験できない『ものづくり体験』など、学校にしかない楽しみがあること。」

■ 挑戦・意欲

「失敗してもいいから挑戦できる学校。苦手なことを責められず、得意を伸ばせるような、子どもたちが伸び伸び過ごせる環境。」

「こども達が自分で考え、『やってみよう』と思えるような学習環境。知らなかったことを覚えられたりできる、楽しいことがたくさんある学校。」

【学校運営協議会委員のご意見】

友だちと仲良く過ごせる学校

いじめのない学校

みんな楽しく遊べるものがある学校

嬉しいこと、悲しいことを話せる学校

地域との連携（挨拶などの声掛け、見守り）

何を言っても「それ、おもしろい!」と返してくれる学校

素晴らしい大人を目標にしなくても楽しんで生ければ、よい人生

給食のメニューを提案できる学校子どもが安心できる居場所のある学校

がんばったことを認めてもらえる学校

明日も学校に行くことが楽しみだと思える学校

学習以外のお楽しみがたくさんある学校

勉強がよくわかる学校

勉強のわからないところを教えてくれる学校

できないことがちょっとできるようになれば最高!

得意なことだけに集中していたら何とかなる

勉強やスポーツの得意分野を伸ばす

参観日にお越しください

寒い中ではございますが、是非、授業参観、図工展、金管バンド発表会にお越しいただき、子どもたちの取り組みをご覧ください。

また、おうちでも今年度をふりかえっていただき、ご家族でお話していただけたらと思います。おうちの方からの励ましは、こどもたちにとって何よりの喜びであり、活力になります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

「みんなが行きたくなる学校」を自分事として考える

～こどもたちの意見から～

教育委員会主催の加古川市内児童会・生徒会代表者ミーティングの今年度のテーマが「みんなが行きたくなる学校」でした。本校を代表して参加した6年生から、熱のこもった報告をうけ、みんなにも広げたいと思い、「わかみやポスト」を利用してこどもたちに尋ねました。心強い、そして温かいこどもたちの意見を、学年別にまとめてみました。

【6年生】自律と尊重：大人も驚く深い洞察

最上級生は、学校全体の「雰囲気」や「権利」について深く考えています。教育目標の「かんがえ」を体現する意見です。単に自由を求めるのではなく、相手への「尊重」や「間違いを許容する空気」を大切にしたいという高い志を感じます。

「積極的にみんなが行動できて、間違えてもいい雰囲気の学校」

「自分の意見が尊重される学校」「みんながやりたいことを自由に言える学校」

「みんなが心に余裕をもって生活できる学校」

【4年生】自由な発想：エネルギーとワクワク

4年生からは、学校をより楽しくしたいというユニークで具体的なアイデアが寄せられました。「見つけて」「やってみよう」の原動力となるのは好奇心です。「どうすればみんなが納得して楽しく過ごせるか？」を自分事として捉える第一歩を踏み出していると感じました。

「給食がバイキングになる学校」「リラックスできるスペースがある学校」

「イベントのある学校」「誰が来ても楽しめる学校」

「服装が自由な学校」「6時間目が無い学校」

【1・2年生】安心と笑顔：すべての学びの土台

低学年の願いは、シンプルですが本質的なものです。教育目標のスタート地点、「わかちあい」の原点です。まずはこの「安心感」があってこそ、高学年のような「挑戦」が生まれることを再確認させられます。

「ふあんにならなくて、なかなか、えがおでいる学校がいいです」

「けんかの無い学校、いじめの無い学校」「たのしいがっこう」

「友だちがたくさんいるがっこう」

【5年生】繋がり：一歩踏み出す行動力と礼儀

あいさつを「自分の元気にもかかわる」と捉える感性。一人の行動がみんなの「わかちあい」に繋がることを理解しています。

「あいさつをしっかり返してくれる人が多い学校」

6年生の回答の中に「深く考えさせられるアンケートありがとうございました。」というメッセージがありました。主体的な「こどもの意見」は、私たち「大人の言葉、行動」によって育っていくものだ改めて感じました。